

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年11月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4679100166
法人名	株式会社 ヘルスネット徳洲会
事業所名	グループホーム 港ヶ丘
所在地	鹿児島県大島郡徳之島町亀徳2239番地 (電話) 0997-81-1215
自己評価作成日	令和3年8月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和3年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしい在宅時の生活と変わらない環境、会話や笑いの絶えない支援を心がけています。
職員同士が、入居者の状態の変化に応じ、意見や提案を発言しやすい職場です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・事業所の理念を十分に活かして、管理者や職員は入居者に寄り添い、笑いが絶えないホーム作りに努めている。
- ・毎月の家族への報告は、日々の生活情報を送っており、家族からも、状況を把握し、そのうえでの要望や意見が出されており、事業所としても何でも言えるような雰囲気作りで対応している。
- ・事業所内には入居者と一緒に作った沢山の作品を飾り、一人ひとりの力量に応じて支援し、生活を楽しんでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時、理念の唱和、理念の共有をし実践につなげるようにしている。	朝の申し送りに事業所の理念を唱和し、意見交換を行い、個別の対応をしている。管理者と職員は理念を共有し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症発生以前はスーパーへの買い物や地域へのドライブ等、行き交流などあったが最近は全く交流ができていない状況である。	コロナ感染防止の為に、地域との交流や外出・面会を自粛している。今後は、感染状況を見ながら以前のような交流ができるように取り組んでいく計画である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域へ出向くことができない状態ではあるが、窓口へ入所申し込みや相談に来られた方には、アドバイス等、行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症発生後は、運営推進会議開催も控え報告書のみ提出である。発生前は、サービスの取り組みを報告し意見やアドバイスをサービス向上に活かしていた。	コロナ感染症の発生後は、運営推進会議で集まるのは自粛しており、書面での報告書を提出している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	月に1～2回、電話や役場窓口にて担当者に入居者報告を行いながら協力関係を築いている。	電話やメールで入居者の報告や相談をしている。島内に、身寄りのない利用者の看取りを相談するなど、エンディングノートを作成し、行政との協力関係を築いている。	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	3ヶ月毎に身体拘束委員会を開催しマニュアルの内容を再確認したり入居者に対し拘束がないか、危険がないかを職員で検討し実践している。	定期的に、身体拘束をしないケアの研修をマニュアルを基に実施している。職員間で検討しながら、危険のないように、見守りを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。鍵の施錠は夜間のみ行っている。	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	職員会議の際、勉強会を開催したり支援困難な入居者対応は職員が一人で抱え込まないよう職員全員で話し合いを持ち一人で抱え込まないようにし虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護や成年後見制度について学ぶ機会は少ないが島内に身寄りがない方は社会福祉協議会が金銭管理を行い連携がとれている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約に至るまでに運営方針や利用料金については説明をし納得いただいている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者のホームでの生活を綴った介護日誌を毎月、家族に送り要望や意見などがあれば支援の見直しを図ったり運営に反映させるようにしている。</p>	<p>利用者からは生活支援の中で思いを聞いている。毎月、介護日誌を家族に送って、家族の要望や意見などを聞き、運営に反映している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>朝、夕の申し送り時や職員会議の際に出た職員からの意見や提案を検討し共有しながら運営に反映させている。</p>	<p>朝夕の申し送りや職員会議でよく意見や要望を話し合っている。入居者の作品づくりを個々の力量に応じて職員と一緒に作成する等、職員の意見が運営に反映している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>コロナ感染症発生以前は年に数回、施設間会議を開催し代表者に対し施設運営状況を報告する機会があり、職員がやりがいをもって働けるよう努めていたが、現在は電話のやり取りのみの報告で対応してもらっている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員個々の力量を把握し見合った研修や受講の機会を設けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>島内に系列の施設があり、交換研修や勉強会を行い情報交換をし、サービスの質の向上に取り入れている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所申し込み時から情報収集に努めており、入居時には安心して入居していただけるよう関係づくりに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービス開始前から、本人や家族の情報は入ってきており、ある程度の関係はできるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族の要望の把握に努め、必要としている支援を最優先で提供できるよう努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>役割をもち生活の中で個々の力を発揮できるよう見守りながら行動してもらい関係を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	毎月、ホームでの生活の様子を記録した日誌を送り情報共有し支えていただき関係を築いている。		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	コロナ感染症発生後は面会や外出もままならず、家族や知人の方には電話で近況報告を行い関係が途切れないよう支援している。	コロナ感染防止の為に自粛している。馴染みの関係継続が難しくなり、電話での対応を主に支援したり、毎月の便りを通して馴染みの関係継続の支援に努めている。	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	入居者同士のかかわり合いが持てるよう性格や個性を尊重しながら、たまに席替えを行い職員も間に入りながら支え合えるよう支援している。		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	外出先で会った際には、家族や本人の現況を聞いたり、時には相談等に対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人はもちろんのこと、家族の要望も聞きながら思いや意向に添えるよう検討している。	本人のペースに合わせた生活支援を行っている。茶碗を洗っている、側に寄ってくる事で、洗いたいとの思いを把握し一緒に行っている。困難な場合は家族と話し合い、本人中心に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、担当だった居宅ケアマネから情報収集し、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	大まかな一日の時間割はあるが自由にレクや体操、家事手伝いや機能訓練に参加し、一人ひとりの能力が発揮できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と話し合い、それぞれの意見やアイデアを職員会議で検討し現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いを聞き、職員会議で検討し、介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎に行い、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を毎日、個別記録に記入し朝、夕の申し送り時に職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の、その時々状況に応じたニーズに対応し柔軟な対応や支援に心がけ本人や家族を支えていけるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染症発生以前は月2回の三味線のボランティアや施設行事に地域のボランティアを招いたりしていたが、今は地域資源の活用ができていない状況である。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の訪問診療があり、服薬処方、その時々体調に応じた相談やアドバイスをいただき、何かあれば病院受診にて適切な医療が受けられるよう支援している	かかりつけ医の受診を支援している。月1回の訪問診療と月2回の訪問看護があり、体調に応じて相談やアドバイスを受けている。他科受診は家族が、行けない時は事業所で対応し、適切な医療が受診できるよう連携を取っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員はいないが、訪問看護の際、介護職員が日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、訪問看護師に伝え相談、アドバイスをいただき利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者入院時には、面会時（洗濯物の受け渡し）の際、早期に退院できるように、訪問看護師も間に入っただき病院関係者との情報交換や相談に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に本人、家族に重度化、終末期対応について説明し同意を得ている。終末期に再確認し本人、家族の気持ちの変化にも対応し柔軟な変化にも対応できるよう職員と情報共有している。</p>	<p>契約時に本人や家族に重度化等について説明し同意書を貰っている。終末期には、再度確認し、家族の協力の下で、医療機関と連携を図っている。数名の看取りを行った事例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>コロナ感染症対策の為、救急隊による救急処置法は受けていないが、職員会議の際に勉強会を開催し利用者の急変や事故発生時に備えて職員は簡単な応急手当や初期対応を心得ている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>コロナ感染症対策の為、消防士による避難訓練は受けていないが、職員会議の際に勉強会を開催し独自での避難訓練を行っている。近所の方には普段から声掛けを行っている。</p>	<p>事業所独自での災害対策の勉強会と避難訓練を行っている。災害時の飲料水・カップラーメン・おにぎり等の食料品の備蓄があり、停電時の懐中電灯もある。地域との協力体制も築いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。	プライバシーを損ねないように勉強会を行っている。特にトイレ誘導時はさりげなく声かけを行い、汚染時はすばやい対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との会話で昔の話を聞いたり、日常の行動に思いや希望を表せるよう押しついたりせず、自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や状態に合わせ、レクや日光浴、ドライブや散歩などを取り入れ過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的な散髪、好みの服装、朝の整髪で身だしなみを整えおしゃれを楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員入居者が一緒に下ごしらえや、お茶の準備をし、楽しく食事の時間も共にしている。茶碗洗いや、お盆拭きも一緒にしている。	食材の下拵えや茶碗洗い・盛り付け等、個々の状況に応じて、職員と一緒にしている。敬老会にはノンアルコールを提供する利用者もいる。行事食の料理を楽しむ支援ができています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	味付けや栄養バランス、それぞれの量や形態に気を付け食事提供をしている。食事・水分摂取量は記録し支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は声掛けし歯磨き誘導を行い口腔ケア、磨き残しの介助を行う。歯科医との連携もとれており不具合があれば訪問治療していただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録をつけ、排泄の間隔を把握しながら声掛けや誘導を行っている。夜間Pトイレやオムツの方も日中はトイレ誘導を行い自立へ向けた支援を行っている。	排泄記録から排泄の時間を把握して、個々の排泄パターンで日中はトイレ誘導を行い自立に向けた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を確認しながら服薬調整、水分補給に心がけ、食事内容にも気を配り、運動も取り入れながら状態に応じた対応に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴はその時々状態に応じて入浴順を入れ替えたり、入浴日以外にも状態に応じた対応をし、楽しく清潔保持ができるよう支援している。浴室から島唄が聞こえる時もある。	入浴支援は週3回、個々の希望や状況に配慮し、入浴の順番等にも対応している。浴室で島唄を歌う利用者もいる。個々に応じた入浴支援を行い、嫌がる場合は入浴日の変更も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状態に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に応じ昼間の休息を促したり、夜間の不眠時には巡回の頻度を増やしたり、夜勤者と一緒にリビングで過ごし安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、時々ファイルに綴じてある薬説明書の再確認を行い薬の目的や副作用、用法や用量について理解をしており、症状の変化の際は訪問看護師に相談し医師の指示を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ感染症発生後は外出支援は全くできていません。たまにドライブにお連れし車外を眺めたりするくらいの支援です。	コロナ感染防止の為に外出支援は自粛している。天候の良い日にドライブに出かけ、車の中から外の景色を眺めて、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は、お小遣いを事務所で預かり職員が日用品や病院の支払いを行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	特定の入居者は家族からの電話や贈り物の支援がある。こちらからも、たまに電話をかけたり、介護日誌を毎月送り関係が継続できるよう支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング壁面には季節の壁絵を飾り、居室は状態に応じ彩光や温度、家具の配置に気を付け居心地よく過ごせるよう工夫を凝らしている。	リビングは採光に配慮し明るい。壁には職員と一緒に作った貼り絵や季節の作品を飾り、三味線に合わせて島唄を歌っている利用者や廊下の長椅子から海からの朝日を眺める等、居心地よく過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を並べ日光浴や入居者同士、語らったり、居眠りをしたり自由に過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、使い慣れた家具やお位牌、好みのものを持ち込み、本人が自宅で過ごしていた時と変わりなく居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	自宅で使っていた家具・寝具・衣類や位牌・遺影などを持ち込み、好みのものを飾り、自宅と同じような雰囲気の中で過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には表札、タンスには品名を記入し風呂やトイレにも目印でわかりやすく表示してあり、自立生活が送れるよう工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない